

令和元年度 第2回尾張旭市社会教育委員会 会議録

- 1 開催日時
令和元年12月11日（水）
開会 午前10時
閉会 午前11時23分
- 2 開催場所
尾張旭市中央公民館 102会議室
- 3 出席委員
9名
- 4 欠席委員
1名（金森俊輔委員）
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した事務局職員
教育部長 大津公男、生涯学習課長 坂田みどり、
生涯学習課主幹兼図書館長 加藤博英、文化スポーツ課長 西尾哲弥、
生涯学習課図書館長補佐兼図書館係長 森下佳美、
文化スポーツ課長補佐兼文化振興係長 林 正信、
生涯学習課生涯学習係長 中川暢顕、生涯学習課公民館係長 安藤繁樹、
文化スポーツ課体育係長 神田真琴、生涯学習課生涯学習係 稲垣正宏
以上10名
- 7 議題等
○報告事項
(1) 第25回尾張旭市生涯学習フェスティバルについて
(2) 尾張旭市少年少女発明クラブの設立について
(3) 令和2年度公民館の改修等工事予定について
(4) 読書奨励事業の見直しについて
(5) 図書館における施設修繕について
(6) 図書館システムの改修等について
(7) 文化会館ホワイエの利用状況について
(8) これまでの協議事項の現状について
○その他
(1) 研修等報告
(2) 今後の予定について
(3) その他

8 会議の要旨

森 委 員 長	現在の出席者数は、9名です。 なお、金森俊輔委員からは、欠席の連絡をいただいております。 尾張旭市社会教育委員に関する規則 第4条にあります「委員の総数の2分の1以上」の要件を満たしておりますので、ただいまから、令和元年度第2回尾張旭市社会教育委員会を始めさせていただきます。 この委員会は、会議公開制度により公開となっております。会議の傍聴とホームページ等による会議録の公開が行われますので、ご承知置きいただきますようお願いいたします。
森 委 員 長	(委員長あいさつ)
森 委 員 長	次に、大津教育部長からご挨拶をお願いします。
教 育 部 長	(教育部長 挨拶)
森 委 員 長	ありがとうございました。 それでは、議事に入らせていただきます。 本日の委員会は、報告事項が8つと、その他の事項となっております。 まずは、報告事項をまとめて事務局から説明してください。 なお、ご意見、ご質問等につきましては、全ての課の説明が終わった後に、お願いいたします。
事 務 局	<u>資料</u>説明 (生涯学習係→公民館係→図書館→文化振興係→体育係の順)
森 委 員 長	ただいまの報告について、ご意見、ご質問等がありましたらお願いいたします。
吉 田 委 員	第25回生涯学習フェスティバルについて、瀬戸信用金庫地域振興協力基金から助成を受けて開催することですが、いくらの金額で申請を出して、実際に助成される金額はいくらぐらいになるのでしょうか。
生涯学習課長	生涯学習フェスティバルに関して言えば、第20回とか第25回のように節目の開催の時に助成申請を提出しています。ただし、市の他課からも申請があり競合すると申請額に対して助成金額は少なくなります。
生涯学習係長	生涯学習フェスティバル事業については、今年度の当初予算ベースで総事業費が80万円となっており、そのうち32万円を瀬戸信用金庫地域振興基金から助成していただいております。 制度上、総事業費の金額の2分の1まで補助をいただけることとなっておりますが、他の事業との調整もあり、32万円で助成金

	の交付決定をいただいた状況です。
若 杉 委 員	図書館システムの改修について確認させていただきます。 最近、神奈川県を始め、自治体で使用された情報機器が流出し、個人情報の取扱について関心が高まっているところですが、今回の図書館システムの改修時には、どのように対処されているのでしょうか。
図 書 館 長	市役所では、電算関係を担当する情報課という部署があり、情報機器を回収し、一括して処理を行っています。今回、廃棄した5台のパソコンについても、情報課の職員が確認し、廃棄を行っています。
若 杉 委 員	情報機器の廃棄について、事業者任せではなく、市役所の庁内で物理的に壊すということではできないのでしょうか。 市が使用したパソコンには、様々な情報が記録されていると思うので、廃棄する際も、情報課に任せきりということではなく、担当課で細心の注意を払って処分していただきたいと思います。
水 野 委 員	少年少女発明クラブを令和2年4月から設立するとのことですが、対象人数と実施方法について教えてください。 「クラブ」なので、習い事のように継続参加するものなのか、毎回募集するものなのか、どちらでしょうか。
生涯学習係長	少年少女発明クラブについては、まだ検討段階なので、現時点での案をお話しさせていただきます。 令和2年4月のクラブ設立時に、市内全小中学校に案内を配布し、クラブ員を募集しようと考えています。その後、クラブ員を対象に電子オルガンやロボットなどの、実施内容ごとに参加者を募集しようと考えています。 定員については、中央公民館の工作室を使用する予定ですので、会場の定員を基に検討し、超過した場合には抽選を行う予定で、現時点は考えています。
水 野 委 員	参加に当たり、材料費などの費用はどのように考えているのでしょうか。
生涯学習係長	費用については、これまでのふれあいものづくり教室では、実費を負担していただくという考えで、材料費のほぼ全額を参加される方に負担していただいておりますが、少年少女発明クラブでは、全国組織である公益社団法人発明協会や愛知県発明協会から一定程度の助成金をいただく予定であることから、幾分は負担を軽くできればと、現時点では考えております。
中 道 委 員	図書館システムの改修の説明の際にもお話しがありましたよう

	に、まもなくWindows 7のサポートが切れることとなります。そこで、今後もパソコンを更新して公民館においてパソコン講座を実施する予定があるのでしょうか。
公 民 館 係 長	公民館のパソコン講座では、Windows 7のパソコンを使用していましたが、来年1月にサポートが切れるため、現在のパソコンは撤去します。 これまでも、受講生からは、公民館のパソコンではなく自分のパソコンを持ち込んで、使い方を教えて欲しいという声が多いことから、今後は、受講者がパソコンを持ち込む方式や、関心の高いタブレットやスマートフォンの講座の開催を考えています。 そのため、公民館のパソコンを更新して、パソコン講座を開催する予定はありません。
水 野 委 員	図書館のスペシャル子ども映画会について、とても人気があり満員となったことで、会場後方の子どもたちが、前が見えない状態になっているのが気になりました。 この点について、何らかの改善は図られたのでしょうか。
図 書 館 長	第1回開催の際、予想以上に好評で会場がいっぱいになってしまい、席が足りない状況となってしまいました。 そこで、この反省を踏まえて第2回からは、スクリーンの前の机とイスを撤去して、床にシートを敷き、直接座って見られるようにするという事で対処しました。
水 野 委 員	参加していたお母さんたちからも、シートを敷けば良いのではないかという意見が出ていたので、とても良い取り組みだと思います。ありがとうございます。
森 委 員 長	生涯学習フェスティバルのオープニングイベントについて、現時点で決まっていることがあれば教えてください。
生涯学習係長	現時点では、2月15日土曜日に文化会館を会場に開催する予定です。 内容は、これまで本市が実施してきた天体観測事業や、プログラミング教室などのほか、ふれあいものづくり教室を発展させて設立する少年少女発明クラブといった本市の生涯学習の取り組みを生かし、PRする場としたいと考えています。 このイベントをきっかけとして、多くの方々に本市の生涯学習を知り、参加していただきたいと思っています。 このイベントは、STEM（ステム）教育を開催テーマとして実施するものです。STEM教育とは、サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、マスの頭文字を取った科学、技術、工学、

	数学の教育分野のことを指します。 来場者の皆さんが聞くだけ、見るだけにとどまるのではなく、参加、体験できる内容のワークショップを開催したいと考えています。
森 委 員 長	他にご意見、ご質問もないようですので、続きまして、次第の3「その他」に移ります。
森 委 員 長	去る、10月10日、11日に、東海北陸社会教育研究大会が三重県津市で開催されました。この大会に参加された委員の皆様から、研修報告を発表いただきたいと思います。
森 委 員 長	大会は、東海北陸6県1市の社会教育関係者が情報交換を行い、各地域で実践する社会教育活動や学習活動の成果発表を聞てきました。 1日目の学習成果の発表では、津市に編入された、かつての美杉村の「美杉連山のろし太鼓保存会」の発表に始まり、表彰式などの開会行事のあと、記念トークがあり、一般社団法人全国社会教育委員連合会会長の青山学院大学教授鈴木真理さんと、三重県社会教育委員連絡協議会副会長の三重県生涯学習センター所長の長島りょうがんさんが、「今こそ問い直す社会教育の意義～つながるつなげる社会教育の力～」をテーマに講演されました。 会談では、11日の分科会の話題提供者に発表内容や要点を発表してもらい、鈴木氏が感想を述べられましたが、厳しい評価をされていた印象を受けました。 社会教育委員は、普通に生活する中で、学ぶ人間でなくてはならないし、任期が終わってもそれなりのことをやってほしいということ、社会貢献は人のために何かをすることだと発言されていたのが印象的でした。 2日目は、5つの分科会に分かれて、それぞれ2つの話題に対して質疑応答を行い、学んだことや考えたことを紹介しました。分科会のテーマは5つあり、「家庭教育支援」「青少年の健全育成」「地域文化の振興」「地域の活性化」「社会教育委員の役割と課題」でした。 私が参加した「地域の活性化」分科会では、富山県南砺市高瀬西地区の取り組みが紹介され、バレーボール大会、納涼祭、運動会などの住民相互の交流が、参加者の固定化や役員のなり手不足などの点で課題があるとのことでした。これらの課題は解決できるものではないので、地域住民全体で取り組めることを地道に行えば、ずっと後で成果が出るものだとの提案がされました。

	もう一つの話は、三重県菰野町から、高齢者の社会参画促進と地域活性化のためのネットワークづくりについて紹介されました。菰野町は人口42,000人ほどで、65歳以上の高齢化率が25%程度、老人クラブの加入者を現状の4,500人からもっと増やし、地域福祉の支え合いなどの諸活動に生かしたいという内容でした。 就業年齢の向上や、自治会加入者の減少、個人情報への対応の難しさなどがあり、どこの自治体も同じような課題を抱えていることが分かりました。 ちなみに、本市の人口は11月末現在で、83,000人ほどで、高齢化率が25.7%、シニアクラブ加入者は1,600人ほどとなっており、これは、本市の高齢者に対する生涯学習が充実し、活動の選択肢が多いからかもしれないと感じました。
山 本 委 員	これまで参加した研修会では、講師が壇上で話をして、参加者が聴くだけというものが多かったのですが、今回は対談形式で、青山学院大学の鈴木先生と、三重県の長島りょうがんさんが、ダジャレも含めながら、色々な角度から突っ込んで話をされ、こういった進行も良いなと感じました。 また、分科会では、グループ討議が行われ、7～8人ごとにテーブルに分けられ、そこで話題提供者の発表を聞き、どう考えたのかを模造紙に書き、最後にまとめるという方法でした。 私が参加したのは、「地域文化の振興」に関する分科会で、伊勢音頭の振興に取り組む三重県伊勢市の婦人団体と、岐阜県岐南町の伝統文化に関する内容の発表でした。 伊勢音頭の取り組みは、場所を問わず踊りますよという姿勢で伊勢音頭振興会による発表が行われているというものでした。 岐南町の発表では、当町が比較的若年層の比率が高いこともあり、これまでの伝統文化をいかにして次の世代に繋げていくかという課題が提起されました。 子どもたちとその父母の世代、祖父母世代の3世代交流をしていきたいと考えているのですが、父母の世代は仕事が忙しく、世代間交流は難しいのが現状とのことでした。 実施者側が一方的に決めてしまうのではなく、参加者目線での取り組みを進めていけば、やがて効果が上がるのではないかとの提案がありました。 同時に役員の高齢化が課題となっており、若い人が入ってこないため、団体の構成員が固定化している状況も改善していきたい

	とのことでした。 本市も、今後生涯学習フェスティバルなどの場や機会を利用者目線で行い、生涯学習に興味関心を持つ方が増えることを、期待しています。
森 委 員 長	ありがとうございました。 続きまして、今後の予定を事務局から説明してください。
生涯学習係長	今後の予定説明
森 委 員 長	全体を通して、何かご意見、ご質問等がありましたらお願いいたします。
中 道 委 員	去る１１月８日に東海市芸術劇場で開催されました、愛知県社会教育委員連絡協議会東尾張支部研修会では、尾張旭市から「星の広場からつながる学び」と題して、スカイワードあさひ天体観測室と天体観測事業を紹介しました。パワーポイントを使った分かりやすい説明で、天体観測室「星の広場」が、他市に誇ることができる施設だと改めて感じました。
若 杉 委 員	私は、現在尾張旭市棒の手保存会の会長を務めていますが、今年、画期的なことがありました。夏頃に市の文化スポーツ課から棒の手をやりたいという中国からの留学生の方がいるという連絡がありました。広報あさひの表紙に掲載された棒の手の写真を見て、ぜひやりたいと思ったとのことでした。 留学生の方の年齢は、３０代半ばで、県内の大学に留学しており、観光について勉強しているとのことでした。伝統文化を、観光に生かすことができないかという視点で論文を書いていて、見せてもらいましたが立派な内容でした。棒の手を含む伝統文化はどちらかと言えば内向きになりがちですが、こういう機会をとらえて、外に向けて発信できるようにしていきたいと感じました。 外国の方がたくさんいらっしゃる世の中になってきたので、皆さんもぜひ外に向けて取り組みを進めていくと良いと思います。
水 野 委 員	生涯学習や社会教育を考えた時に、イベントを企画し、地域の方が申し込んで参加するということは、とても良いことですが、地域で取り組みを進めていくことも大切なことだと思います。 現在、昔から地域ごとにある子ども会が減少してきている現状があります。両親が忙しくて活動に参加できないことや、区画整理で新しく居住された方の中で町内会に入らない人がとても増えていることなどが理由と考えられます。 私が住む地区でも、町内会に加入していない若い世帯の方が多く、地区の子ども会に加入するには、町内会に加入していなけれ

	ばならないシステムになっているようで、子ども会の活動に関わらないまま、多くの子どもが中学生になってしまっています。 このように、小さいうちに地域と関わることができない子どもが増えていることがとても気になっています。 社会教育を進めていく上で、地域で交流する機会はとても大切であり、昔から地域で活動している子ども会の活動が衰退していくことを懸念しています。家族、家庭だけではなく、地域を含めて活動できることは少ないので、子ども会の活動を何とかした方が良いのではと思っています。
森 委 員 長	私に関わっている社会福祉協議会にもその件で相談があり、残念ですが、令和２年度末で尾張旭市子ども会連絡協議会は解散すると聞いています。 社会福祉協議会は、市内の様々な福祉団体が加入して協議会を構成しており、子ども会からも理事を選出いただいています。 今後、市子連が無くなってしまうと、子育て世代からの意見をいただく機会が無くなってしまうので、何らかの形でお子さんがいらっしゃる方で構成される団体から意見をいただきたいと考えています。市こども課にとっても大きな宿題となっていると認識しています。
水 野 委 員	子ども会の存続が難しいという点で現状をお伝えすると、地域ごとにいくつかの会がありますが、会によって規則が全く異なっています。 中には、加入すると必ず保護者が役員を務めなければならないという規則もあり、子どもが低学年のうちには加入していても、役員を務めることになる高学年になると、会を辞めてしまうということも起こっています。そうすると、低学年の保護者が役員を務めざるを得なくなり、その現状を見て新規の会員が入ってこないという状況になっています。 昔からの規則がそのまま引き継がれていますが、今は勤めていらっしゃる保護者が多いので、そのままのやり方では負担が大きいですと感じます。 来年度、私が役員を務める予定ですが、なるべく負担を減らして次の方がやりやすくなるように見直しをしたいと考えています。しかし、後のことも考えておかなければならず、なかなか動けないという状況でもあります。
若 杉 委 員	子ども会だけでなく、自治会も同じような状況になっており、役員が回ってくるから会を辞めるという方は多いと感じます。

	そのための解決策やどうしたら良いかということは分かりませんが、地元のお祭りや地域の行事に携わる人が、まずは話が出る関係になれば良いと思います。 先ほどお伝えしたとおり、私は棒の手保存会の活動に関わっていますが、こういった地域での活動は、一人ではとても出来ません。できるだけたくさんの方に参加してもらって、活動することができれば良いと思います。
森 委 員 長	先ほど報告させていただいた東海北陸社会教育研究大会の講師の鈴木さんから、「地味に地域全体を巻き込んで、効果はすぐには現れないけれども、後でじわっと出てくるようなことをやったらどうか」という発言がありました。 私も社会福祉協議会の会長になって1年が経ちますが、色々なイベントをやっても地域の人全員が参加する訳では無く、いつも同じ方が参加されていると感じます。イベントももちろん大切ですが、やはり日頃の活動として、挨拶や声かけをしていくことが重要だと思います。 地域の人との繋がりや支え合いは、災害などが起きた時に無くてはならないものです。挨拶ができたから、即、地域の皆さんが繋がるものではありませんが、こういったことの積み重ねが大切だと思います。すぐに効果を期待せずに、活動を地域に広げていくことが必要だと感じています。
吉 田 委 員	市子連の総会やイベントで、文化会館が満席になった時代もありました。他にも、ソフトボール大会やスポーツ大会も行われていましたが、今は無くなってしまいました。 今の若い方が忙しいことは分かりますが、子どもたちが集まる機会が無くなってしまうことは残念に思います。
生涯学習課長	ご意見ありがとうございます。皆さんが感じていらっしゃる懸念は、お父さんお母さん世代が忙しくなって、役員のなり手がいないというのが大きい理由かなと思います。 子ども会に関しては、現在は市子ども課が所管していますが、過去は社会教育課が所管していた時期もありました。 子ども会に限らず、自治会や町内会等の色々な団体の役員のなり手がいないという問題は、全国どこにでもある問題だと思います。社会教育の立場からできることを続けていくことが重要だと思いますので、こういった場で皆さんから意見をいただいて、何かできることを考えていきたいと思いますし、皆さんも地域で出来ることを続けていただきたいと思います。

吉 田 委 員	学校の先生にも関わってもらってはどうか。 学校の中だけで色々なことを抱え込むのではなく、地域と学校が関わり、つながりが出来ていくと良いと思います。 もちろん、先生も忙しいと思いますので、無理にということでは無く、できる範囲で考えてはどうか。
山 本 委 員	昔から地元の方がお住まいの地域はつながりが強いと思いますが、私が住んでいる団地のように新しく開発された地域は、地域のつながりが無いと感じます。 私も、住んで40年近くになりますが、どちらかというによそ者で、そういうよそ者ばかりが集まる地域では、お祭りや盆踊りも開催されません。現在、町内会長を務めています、年1回、町内会の役員が集まり来年のことを話し合うぐらいです。 会長や会計などの役職が回ってくる順番が決まっていて、何年後にやらなければならないかが分かります。負担を考えて、75歳以上になったら役員は免除してもと思いますが、高齢者ばかりになってきているので、それも難しい状況です。 新しい住民の方が多い地域では、そういったギャップもありますので、そこをどのようにつなげていくかが難しく、悩んでいるところです。
生涯学習課長	今は、どこでも色々な問題を抱えていると思います。 地域とつながるとか、世代をつなげるというのは、社会教育でも取り組んでいく必要があることだと思います。 市としましては、生涯学習フェスティバルなどのイベントを通して、色々な方が集まれる場所を提供して、集まった方々が話をしていただける環境を作る必要があると考えています。委員の皆様からこういうことをやったら良いのではないかなというように意見をいただいて、進めていこうと思っています。
水 野 委 員	昔は、子ども会やPTAの活動をするに当たって、学校が配布していた名簿などを使い、お誘いすることができたかもしれませんが、今は一切そういうことは出来ませんので、直接、顔を合わせて誘ったり、呼びかけをしたりしていくという、役員の地道な活動が無いと、会が廃れていってしまいます。 せっかく、今まで続けてきた活動が無くなってしまうことは、残念だと感じています。
森 委 員 長	私も、今、町内会長を務めています。 町内会の活動の中に親子会というものがある、新1年生になる子どもたちをお誘いしているのですが、子どもの情報を学校か

	らもらえないので、さらに仕事が大変になっているとは感じています。 しかし、新たに地域に引っ越してくる方は小さい子どもが多いので、イベントなどに積極的に参加してくれますし、町内会への加入をお願いすると、待ち構えていたということもあり、新しい住民の方が参加しやすいような取り組みを続けていくことが大切なのではないかと思います。
松 原 委 員	皆さんが言われたように、市民目線、利用者目線で、皆さんが集まって社会教育に目を向けられるような催しをして欲しいと思います。 今後、開催される生涯学習フェスティバルなどのイベントで、主催者側の目線でなく市民目線で皆さんが興味を持ってもらえるような催しをやっていただけたらと思います。
森 委 員 長	皆さんが関わっている団体や活動を踏まえて、様々な意見を出していただき、ありがとうございました。 他に、事務局から何かありますか。
生涯学習係長	事務局からは、特にございません。
森 委 員 長	それでは、以上をもちまして、本日の尾張旭市社会教育委員会を閉会したいと思います。 長時間にわたり、ありがとうございました。